

令和5年度 体育科実践・研究計画

部 員 ○伊藤 敏幸、山田 幹

研究テーマ

自他の課題を解決する中で、運動との多様な関わり方のよさを実感する子どもを育む学び

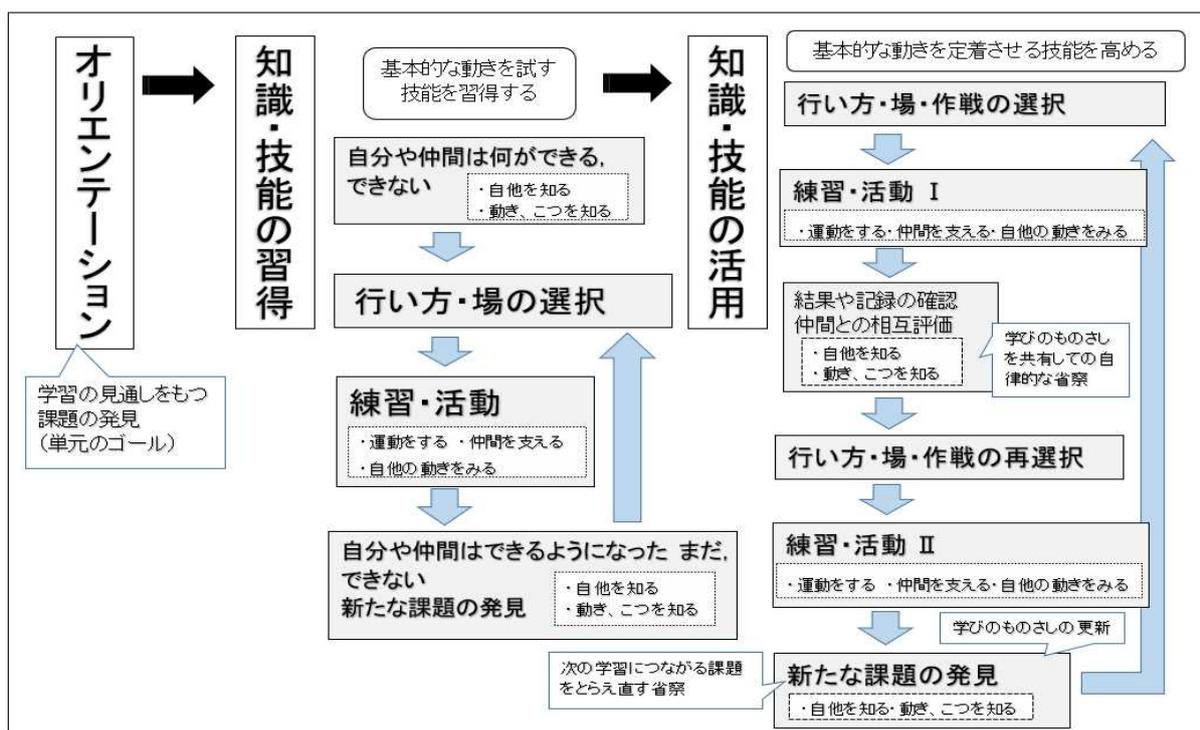
1 研究テーマについて

体育科において、運動の特性等に注目して、楽しさや喜びを味わい、体力を向上させる中で、運動との『する・みる・支える・知る』などの多様な関わり方について考えることが重要である。

昨年度は、学習活動を通して子ども自身が動きのこつを探していく学習過程の有用性に気付くことができた。しかし、見付けたこつを既存のものと比較したり更新したりすることは不十分だった。また、他の運動や動きに応用していくことについては課題が残った。その根幹にあるのは、課題解決したことを言葉や文章及び動作などで表したり、仲間に理由を添えて伝えたりすることが十分ではない状態にあったことが原因と思われる。そこで、自分の感覚的な気付きと身体の使い方を関係付けて言語化し、仲間との協働的な学びを通して、みんなで使えるこつに昇華させていく姿を期待し、新たな研究テーマで実践を積み重ねていく。

体育科で目指す自律した子どもの姿

- ・見付けた課題の解決に向け、自分の考えを仲間に伝えようとする姿
- ・今身に付けた動きのこつを、他種目の動きに活用しようとする姿



図：体育科 自律した学習者を育てる学習のプロセス

2 研究の重点 〈○は具体的な取組の例〉

運動を通して身に付けたことを仲間へ伝えるための支援の工夫

- 自分（たち）で動きのこつを「探す」「共有する」「選択する」学習過程の工夫
どのこつを、何のために使うかを伝え合う場を設定する。
- 役割を明確にした、仲間と関わり合う学習形態の工夫
運動する・補助や助言をする・動画を録画するなどの役割を分担する。
- タブレット端末による録画や視聴の効果的な活用
導入・展開・終末など、目的に応じて時間を限定して機器を活用する。